

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 15号

2012/9/10 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、商品先物市場へのヘッジファンド資金流入：1年ぶりの大きな水準に到達(9/8)

- ・ヘッジファンドなどの投資資金の商品先物での持ちポジションが2011年9月ぶりの高い水準に
- ・先物でのロングポジションの合計額は1,110億米ドル(≒8.7兆円)規模に
- ・欧米の景気刺激策が功を奏すこと(インフレ傾向)を予測しての先物買いで形成された需要である

商品先物の統計によると、現在、商品先物市場に流入しているヘッジファンドやその他の投資金融機関等からの投資金額が、欧米の景気刺激策を予測し、先物市場それに反応し高騰しており、2011年の9月以降の高い水準になっている。

得に、高騰している金、原油、穀物に対して更に投資マネーが流れ込む様相で形成されている。

U.S. Commodity Futures Trading Commission.が発表した9月4日までのデータをロイター社が集計したところ、現在商品先物市場で増加し続けているロングポジションに投資している金額は1,110億米ドル(≒8.7兆円)にまで達している。

週間ベースで見ても、ヘッジファンドなどの機関投資家は週に40億ドル(≒3160億円)、米国の先物市場に投資しており、この3週間ロングポジションの合計額は増加を続けている。

商品先物市場は8月より持続している米国の雇用統計資料の低迷と、欧州の経済危機が、機関投資家にインフレ誘導が唯一の景気刺激策であるとの認識が形成されてきたことで、活力を取り戻し、継続的に上昇を続けている。

金価格は、欧州中央銀が6日の理事会で、困難に直面しているユーロ加盟国の借り入れコストの引き下げに向け、新たな国債買い入れプログラム(OMT)の実施で合意し、同プログラムの下、流通市場で償還期間が3年までの国債を量的な限度を設けずに買い入れる発表をした後、6カ月ぶりの高値水準に一気に上昇した。

市場参加者の間では、米連邦準備理事会(FRB)が3回目の金融量的緩和政策(QE3)に踏み切ると推測されており、銅は4カ月ぶりの高値、原油も高騰している。*QE3についての解説は下記参照。

FRBが来週の水、木曜日に連邦公開市場委員会(FOMC)を行うが、焦点はその焦点は、8日に発表された非農業部門の就業者数が事前予想(12万5000人増)を下回る9万6000人増だったことを受けて、QE3の実施が事実上合意されるか否かである。

QE3・・・アメリカの連邦準備制度理事会(FRB)による実施が予測されている量的金融緩和政策の第3弾のこと。「Quantitative Easing program 3」の略称。通常の金融緩和策が政策金利を引き下げるものであるのに対し、QE(Quantitative Easing program)は市場に供給する資金量を増加させることで金融緩和を図るのが特徴。景気が悪化状態にある時、一般的には金利を引き下げる策が用いられるが、すでにゼロ金利の状態にある場合は、金利の引き下げにより市場に資金を流すことができないため、中央銀行が資産の買い入れを行って市場に出回る資金量を拡大するという量的緩和策がとられる。

QEの第1弾であるQE1は、2008年のサブプライム住宅ローン問題を受けたリーマンショックや世界同時株安といった金融危機が起こった際に、FRBによって2009年3月から2010年3月まで実施された。第2弾のQE2は、景気回復の促進とインフレ率低下の阻止を目的として実施され、長期金利の押し下げを狙い、2010年11月から2011年6月までの約8ヶ月間に渡って、1ヶ月あたり約750億ドルのペースで合計6000億ドルの米国債の追加購入が行われた。

QE3の実施予測には、金融緩和による景気の持ち直しに繋がるとの期待も寄せられているが、同時に過剰な資金供給により物価の上昇を招き、インフレに陥ることも懸念されている。

2、NYココア市場、OPEN INTERESTが最大記録を前日に引き続き更新(9/7)

ニューヨークICE商品先物市場でのココアのOPEN INTEREST(=未決済の買い売りのポジション)の数が過去最高記録を更新した。7日の市場では新たに、2795枚(27,950トン分のカカオ豆に相当*1枚=10トン)増加し、市場に存在するポジションの合計は、204,878枚(204.8万トン分のカカオ豆に相当)で、前日の最高記録202,083枚を更に追い越したことがICEのデータで判明した。

3、インドネシアのカカオ豆輸出、8月は前月比68%減(9/7)

9月7日付のビジネス・インドネシア紙(i6面)によると、インドネシアカカオ協会(A s k i n d o)のファーマン・バクリ事務局長は6日、同国の8月のカカオ豆輸出量が前月比67.6%減の4568.42トンとなったと明らかにした。7月に収穫期のピークを終えたため。同事務局長は、8月の輸出量は毎年の傾向で、年初には再び増加すると説明した。**8月の輸出量は、前年同月比では31%減少**した。

4、アジア市場：ココアバター2011年初旬以来の高いレシオ水準へ上昇(9/7)

- ・今週アジア市場でのココアバターのレシオがロンドン先物市場価格に対して1.33~1.40まで上昇し、そのレベルで取引された。
- ・ココアパウダーの価格は先週より上昇し\$4,000/MT。

今週アジア産のココアバターの価格は、欧州産の供給不足感とチョコレートシーズンを前にした需要の上昇で2011年初旬以来の高い水準となる、1.40レシオで取引された。

欧州のチョコレートメーカーの直近の需要に対応できる欧州バターが不足している為、アジア産へのシフトが加速し、先週は1.30レシオであったが、今週は1.33~1.40へと上昇した。今年初めには、ココアバターのレシオは1.05であった。

『どこの会社も買い控えている状況だが、クリスマスシーズンは来る。でも欧州のカカオ磨砕数量は落ち込んだままだ。このしわ寄せが、アジアに来ている』とシンガポールのトレーダーは話す。彼は今週 1.33 レシオで販売を行ったという。

また、別のトレーダーは『アジア市場でもココアバターは不足しがちになっており、これが直近の積み時期のレシオを上昇させている要因になっている』と説明する。

『ただ、欧米のカカオ磨砕数量は下落しているが、アジアのカカオ豆磨砕数量は落ちていない。欧米は第3四半期も更に数量が落ちるかもしれない。』

Cocoa Association of Asia のホームページの統計によるとアジアの 2012 年第2四半期の磨砕数量は 150,726 トン。前年同期比で 5.8%の増加であった。

一方欧州の第2四半期の磨砕数量は欧州危機によるチョコレート製品の需要減少と、磨砕業者の収益性の悪化が原因となり、12年ぶりの鋭い落ち込みとなる前年対比 12.8%の下落であった。

現在の欧州市場のココアバターのレシオは 1.6 で7月上旬の 1.22 から大きく上昇してきている。カカオ相場自体が上昇し続けているにも関わらず、チョコレートメーカー筋からの買い付けがあることもこの高いレシオ水準を維持させている。

ココアパウダー市場は、先週の底値 \$ 3700/MT から今週は上昇し、\$3,800~\$4,000/MT の価格となった。前述のシンガポールのトレーダーは『今週パウダーは\$3,800/MT で販売したが、今後\$4,000/MT で販売するだろう、パウダーの値段が下がっていくことはないだろう』と見解を述べた。

5、ウガンダの 2011/2012 クロップ前年対比 6 % 上昇(9/3)

2011/2012 シーズンのウガンダ産のカカオ豆収穫数量は、良好な天候と苗木から生産可能なカカオ木に成長したものが多かったこと等が起因して前年シーズン対比で 6.1%の上昇となっていることが国が母体となっている Cocoa Development Project (CDP)の発表で判明した。

東アフリカの国々はコートジワールの西アフリカの国と比較し、カカオの生産数量は少ないが、カカオはウガンダの輸出主要商品で、外貨獲得の手段でもある。

前シーズンはウガンダ全体では\$4,400 万 (≒ 3.5 億円) の輸出金額で 2009/2010 シーズンは\$3700 万 (≒ 2.9 億円) から上昇した。

前述の CDP のトップである Joseph Kimera 氏によると、ウガンダ全体で前シーズンの 17,900 トンから拡大し、今シーズンは 19,000 トンのカカオ豆の収穫数量が期待できるとしている。

『私達は 5 年前から積極的に新しいカカオの苗木を植えてきましたが、ようやく昨年より収穫可能な状態になり、これが起因して収穫数量が増えると思込んでいる。また農家たちも農家出荷価格が安定していることでよりやる気を持って取り組むようになってきている。乾燥したカカオ豆の農家出荷価格はほぼ年間を通じて、キロ当たり 4500 ウガンダシリング (≒\$1.79) であった。』

『昔は、価格が乱高下したことで、カカオ農家が収穫などに対する意識やモラルが低くなったことがあったが、この数年農家たちは安定した収入を得ることが出来ている』

ウガンダのカカオ栽培は、100 年程前から同国に紹介されていたが、ウガンダ政府は当初、コーヒーの生産、輸出に注力してきた。カカオ豆の収穫数量のピークは 1960 年代で、70 年代、80 年代は政府からも期待されず、資金不足や、買付け価格の不安定さもあり、同国内でも全く成長しない産業であった。しかしこの数年、政府は、コーヒーだけに依存する政府の外貨獲得手法を変えようと考え、農家により

カカオ栽培をおこなうように促進している。

ウガンダでは現在 18,000 ヘクタールの土地でカカオ生産がされており、カカオ産業は 10,000 世帯数を支える産業となっている。

【ウガンダ共和国について】



人口：3271 万人
GDP:145 億ドル
気候 - 熱帯性気候
平均気温 - 21 度-25 度
雨季 - 3 月-5 月と 10 月-11 月
日本との時差 - 6 時間

【ウガンダ経済について】

広大で肥沃な土地、豊富な降雨、鉱物資源に恵まれ、大きな開発ポテンシャルを持つが、これまでの政治的不安定と誤った経済運営で、ウガンダは世界最貧国として開発から取り残された。アミン統治の混乱後、1981 年に経済回復計画で外国支援を受け始めたが、1984 年以降の金融拡大政策と市民闘争の勃発が回復を遅らせた。1986 年に経済再生を掲げた政府は交通と通信を再構築始めた。1987 年に外部支援の必要性から IMF と世界銀行に対し政策を明言した。この政策は実行され、インフレは 2003 年の 7.3%まで着実に減少した。

農業ではアフリカでも有数のコーヒー生産国で、2002 年輸出額の 27%を占める。ほかに輸出品として衣料、動物の皮、バニラ、野菜、果物、切花、魚が成長しており、綿、茶、タバコも依然重要な産品である。

工業はセメントなど再生中である。プラスチック、石けん、ビールなど飲料は国内生産されている。Tororo セメント社などは東アフリカ諸国の需要に对应している。

6、ブラジル産カカオ豆集荷数量 前年対比で 30%増加へ。

ブラジル・バイア州のバイア商業協会が 9 月 2 日までに発表した統計によると、5 月 1 日～9 月 2 日の同国カカオ豆着荷量（輸入含む）は前年同時期で 30%増加した。同州のアナリスト、トーマス・ハートマン氏は、先週に引き続きまだ地元加工業者の倉庫に空きがなく、引き渡しが滞っていると指摘。

ブラジルの主要産地であるバイア州については、このままの順調な集荷が 4 週間ほど続けば、1,996/1997 年シーズンの最高集荷数量に到達する可能性があると予測した。

《2011-12 集荷数量（60KG BAGS）5 月 1 日～9 月 2 日》

	先週	合計(袋)	合計(トン)
バイア州	53,953	1,340,051	80,403
その他の州	20,452	597,219	35,833
ブラジル以外の国	0	101,485	6,089
Total	74,405	2,038,755	122,325

《2010-11 集荷数量 (60KG BAGS) 5月1日～9月2日》

	先週	合計(袋)	合計(トン)
バイア州	44,894	1,105,387	66,323
その他の州	22,842	374,365	22,461
ブラジル以外の国	0	83,973	5,038
Total	67,736	1,563,725	93,823

7、テーマ特集：フェアトレード

先日、私が参加したフェアトレード関係のイベントでの情報によりますと、現在日本で右記の『国際フェアトレード認証ラベル』がついた商品の日本での総販売金額（小売ベース）は21億円だそうです。

マークの意味は真ん中の人間が手を挙げて、「がんばるぞっ！！」といった感じをイメージされているようです。

このラベルがついていることだけが、決してフェアトレードであるという商品の証明というわけではなく、其々がフェアトレードの意味合いを考えて実践するのが最も大切なことだと私自身思っておりますが、拡大しているファトレード市場について、今後何号か続けて特集していきたいと考えています。



国際フェアトレード認証ラベルとは？

ファトレードの明確な基準を設定し、それを守った製品にラベルを貼付して分かりやすく伝え、ファトレードを広めていこう、というのがファトレード・ラベル運動です。国際ファトレード認証ラベルは、その原料が原産国で生産されてから、輸出入、加工、製造工程を経て『フェアトレード認証商品』として完成品となるまでの全工程で国際フェアトレードラベル機構 FLO (Fair Trade Labelling Organizations International) の国際フェアトレード基準が守られていることを証明しています。

次号では、その国際フェアトレード基準について、具体的に調査してみたいと思います。そして、その後、日本での認証活動を行っているフェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) 様へのインタビュー等も予定し、最新の「じゃあどうやったら日本で自社の製品にそれがつけられるの？」という一番具体的な情報まで掘り下げていきたいと考えています。

フェアトレードチョコレート商品の例



キャドバリー・デイリーミルク
 50g・・・¥137 (税込)
 100g・・・¥294 (税込) *左写真
 165g・・・¥399
 *ファミリーパック (個包装)

*上記商品は現在マルチフードインターナショナル社が日本での販売活動を行っているようです。
写真及び、販売価格情報は同社 HP より抜粋。

*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。
《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp